opusdei.org

## 属人区長の書簡 (2012年6月)

ハビエル・エチェバリーア司教は、6月の典礼上の祝祭日について触れ、それらの日が、イエス・キリストを愛し、もっと付き合いを深める機会とするように勧める。

2012/06/11

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに! 数日前に、聖霊降臨の祭日を祝いま した。聖霊が私たちをあらためてご 自分のものにしてくださるよう、イ エスの御母マリアと固く一致しつ つ、この日の準備をしてきました [i]。その後、私たちは年間の典礼に 戻りましたが、それは私たちの地上 の旅路のかたどりのようです。御父 の懐からイエス・キリストによって送 られた神なる慰め主は、私たち皆が 渇望する最終目的、つまり神におけ る永遠のいのちに入り、その無限の 至福に与ることに向けて、私たちを しっかりと導いてくれます。オプ ス・デイは、その信者にとっては天 国を映し出すものであり、辛く苦し いときも、日々この道を喜んで忠実 に走り通すよう、創立者は私たちを 励ましていました。

人生の浮き沈みの中で、私たちを 待っているこの幸いなる終着点を忘 れないように、典礼は次の日曜日 に、三つのペルソナである唯一の 神、三位一体の神秘を祝い観想する よう招きます。私たちは、この三位 一体の神を所有し、永遠に楽しむこ とによって、私たちの存在の目的に 到達するのです。最善を尽くして、 この祭日の準備をしましょう。聖ホ セマリアは、教会の古い伝統に従 い、オプス・デイのセンターにおい てはこの日までの三日間、天使たち と諸聖人が間断なく三位にして唯一 の神に捧げている称替と感謝と栄光 の祈りに心を込めて参加するよう促 す、Trisagio Angélico(三位一体を 称える祈り)を唱えるよう勧めまし た。創立者と共に唱えることができ た人たちは、喜びのうちに神の三位 のペルソナに対するこの替美を繰り 返しておられたのを、よく覚えてい ます。

この三日間、御父、御子、聖霊への 祈りに導かれて、Tibi laus, Tibi glória, Tibi gratiárum actio in saécula sempitérna, o Beáta Trínitas! 御身を称え、御身に栄光、世々に至るまで御身に感謝、おお、至聖なる三位一体よ、と神に嘆願することにしましょう。Sanctus, Sanctus, Sanctus Dóminus Deus exercítuum…聖なるかな、聖なるかな、聖なる万軍の神なる主、と唱えて、天の歌声に唱和します。御身の栄光は天地に満ち満ちています。

教会が、年間の典礼に戻るにあたっ て、聖三位一体に心を挙げ、替美 し、観想するよう私たちを招くこと には、非常に深い意味があります。 これこそ、この世の全ての人が人生 の目的にすべきことなのです。全て の人は、この世で神を知り、神を愛 し、後の世において永遠に主をほめ たたえるために造られたのですか ら。私たち皆が、関わっている全て の人にこのことを思い起こさせなけ ればなりません。聖ホセマリアは、 説教「聖性を目指して」の中で、ま たとないこの幸せな目的に到達する

ための歩み方を示しています。キリ スト者としての歩みは、イエスにい つも導いてくださる聖母との信頼に 満ちた付き合いから始まることを示 した後で、あらゆる状況において、 十字架上の主と一致するまでキリス トと共に歩むことを教え、こう述べ ています。「そこで、心は、聖三位 の各ペルソナを区別して、別々に礼 拝する必要に駆られる。これは、あ る意味で、子供が目を開いて物事を 発見するように、超自然の生活にお いて実現する心の発見であると言え ます。父と子と聖霊との交わりを楽 しみ、活ける力をお与えになる慰め 主の御働きかけに容易に従います。 戴く値打ちのない私たちに、紹自然 徳や賜をお与えになる慰め主に従う のです。 | [ii]

私たちは皆、今から、神との一致に 至るこの道を前進することができま す。繰り返しますが、特別な状況に おいても日常生活においても、あら

ゆる状況に超自然的な意味を見出 し、常に主を捜し求めることによっ て、天国における究極的な神との一 致を先取りすることができるので す。聖ホセマリアは、聖性に向かう この歩みについて、こう述べていま す。「特別の状態について話してい るのではありません。ごく普通にあ り得る現象です。愛に夢中になれ ば、突飛なことや目だった振る舞い をせずに、苦しむこと、そして、生 きることを学びます。神が知恵の賜 を授けてくださいますから。この 『命に至る狭い道』 (マタイ7,14) に分け入るならば想像もできないほ どの平安、得も言われぬ落ち着きが 訪れることでしょう。| [iii]

私たちの道のりは明白に示されてい ます。Per

crucem ad lucem! 十字架を経て光に 行き着くのです。恩恵の働きかけに 誠実に応えるなら、イエス・キリスト との一致が至聖三位一体の懐に私たちを導いてくれます。この恩恵はは、このというはいるされます。これはいるされて、とりわけららさしてもたらでである。「御方だろう。秘跡は私たちのとなったもりに応じた薬である。秘跡を導びなさい。そして、私たちと教会に深く感謝しなさい。」[iv]

神との交わりを深める手段をくださった神に、日々、感謝することを忘れてはなりません。聖ホセマリアは、それらを「人となられたみことばの足跡」[v]と表現すると同時に、しっかりとそれをたどって進むよう勧めていました。

地域によって6月7日の木曜日か次の 日曜日かに祝うキリストの聖体の祭 日のことを考え、この聖なる秘跡に ついて簡単に話したいと思います。 ご聖体は、神の御助けが凝縮された ものであり、地上を旅する私たちを 養う霊的な糧です。ミサ聖祭の続唱 はそれをこう表現しています。Ecce panis angelórum,

factus cibus viatórum: vere panis filiórum, non mitténdus cánibus Z れは、天使のパン、旅人の糧、子ら のまことのパン、犬に投げ与えてはな らない[vi]。ミサ聖祭の後、ご聖櫃 にお留まりくださったのです。「ご 聖体は人々の霊魂におけるイエスの 現存と世界を支える力の保証であ り、世の終わりに、父なる神、子な る神、聖霊なる神、つまり唯一の神 の至聖なる三位一体の玉座、天の住 みかに永遠に住まわせようという救 いの約束の確かな保証でもありま す。キリストご自身と、パンとぶど う酒との外観の下に実際にまします イエスを信じるなら、私たちの全信 仰を表すことになるのです。」[vii]

これからの日々、イエスを心から崇 め、愛をささげるよう努めましょ う。ご聖体のイエスを称え、イエス に感謝し、私たちの犯した罪とご聖 体に対する不敬を償うことを熱烈に 望んで、聖体替美式、聖体行列など に参加しましょう。またその他の聖 体信心の行事に個人的に参加するの もいいことです。そして、何よりも 6月15日のイエスの聖心の祭日に は、全幅の信頼を持って主に近づき ましょう。十字架上で槍に貫かれて 聖心が開かれたのは、私たち一人ひ とりに対する無限の愛を表すためで あると固く信じつつ近づきましょ う。さらに、当然なことですが、確 かな道である甘美なるマリアの御心 にも馳せ寄りましょう、iter para tutum!(あなたの道を準備してくだ さい)。

6月は、オプス・デイの歴史においても非常に意味深い日付の多い月です。1944年6月25日は最初の三人の

司祭叙階式、1946年6月23日は創立 者のローマ到着日、1950年6月16日 はオプス・デイの精神と規定が聖座 の最終認可を受けた日。そして、忘 れることのできない1975年6月26 日、聖ホセマリアの帰天記念日で す。私は、創立者が最期の日まで特 別の信心を込めてご聖櫃の前にひざ まずくことを望み、そうしていたと 断言できます。あの6月26日、疲れ きっておられたにもかかわらず、カ ステルガンドルフォから帰ってきた 際に、ご聖体の前で深くひざまずか れました。私たちもこのように振 舞っているでしょうか。神を礼拝し ているのだと自覚して、そうしてい るでしょうか。教会、あるいはご聖 体の安置されている聖堂を出入りす るとき、ご聖体にあいさつする必要 を感じているでしょうか。

聖ホセマリアの記念日を祝うにあたり、オプス・デイの全信者、つまり 司祭と信徒、さらにはオプス・デイ の精神に助けられている友人や協力 者たちに、聖性と使徒職の望みがの なたう強まるがいましているを通している多いましょう。と もっそう強している多願いましている。のいましての場合ののはました。のいなが、 もののののはなが、はないでではるのののののののののののののののでは また願いましょう。

先日のブラチスラヴァへの司牧旅行から、大いに満足して帰ってきたことを、喜びのうちに皆さんに伝えます。愛するスロバキアとチェコでのオプス・デイの使徒職の発展振りを、皆さんと固く一致しつつ、目の当たりにすることができました。

私たちの種々の願い事の中で、いつも特別な位置にあるのは、教皇様と教会の統治におけるその協力者のための祈りであり、加えて世界中の司

牧者、つまり司教と司祭たちのための祈りです。29日の聖ペトロと聖パウロの祭日は、これらの意向をより明確に表すのに役立つでしょう。創立者は、ペトロの後継者が決して孤独になられないようにと願っていました。私たちの協力がはっきりように。

最後に、6月14日の私の誕生日について、少し触れておきたいと思います。まず、私のために祈ってくださるようお願いします。私にはそれが必要なのです。

数ヶ月前から、聖ホセマリアが70歳の誕生日を祝ったときのことを脳裏に思い浮かべています。創立者がそのとき願ったことは、祈りの人になるための恩恵でした。神のうちに潜心し、絶えず主との対話を続けていたにもかかわらず、そう願ったのでした。1972年1月8日、僅かな人数の

娘たちのためにミサ聖祭を捧げたとれきに、こう言明されました。「これました。「の談生日前夜のないです。なわち、祈りないこと、その祈りを唱えとでするとが、その祈りを唱えとでするとでがでいるという。」を当れば、役立の人になれるでしょう。」「viii」

また、愛するドン・アルバロが80歳の誕生日をどのように準備されたかも思い出します。その日のミサのは親と痛悔、助けられた感謝と痛が心に刻み付けられた。何か特別な事が実めん言くがあるといいますといいもっとお助け下さい。私も、とおいいますし、皆さんですように努めていますし、皆さん

にも勧めます。落ち着いて平和に過 ごせるようになるはずです。

二ヶ月前に85歳になられたベネディ クト十六世が述べられたことを共に 味わいたいと思います。教皇様はこ うおっしゃいました。「私は人生の 最終段階にいます。何が待っている のか分かりません。しかし、神の光 があることは分かります。主は復活 し、その光はいかなる闇よりも強力 で、神の善性はこの世の全ての悪よ りも強力です。そしてこのことは、 確信を持って進むよう私を助けてく れますし、私たちが前進するように 助けてくれます。そして今、自分の 信仰を通して神の『はい』を私に絶 えず思い起こさせてくれている全て の人たちに、心から感謝します。| [x]

神の愛ゆえに改めて皆さんにお願い します。皆さんの祈りで私を支えて ください。そして、聖ホセマリアが 互いに助け合う必要のあることにつ いて度々述べたことを思い出し、次 の言葉を一人ひとり自分に当てはめ ましょう。「子供たちよ、私は期待 します。皆さんが、共にいるところ で一致していることを、共に働いて いるところで一致していることを、 共に休息しているところで一致して いることを。」私たちの祈りと犠 牲、仕事と休息、日常生活におい て、健康なときも病気のときも、こ の一致がいつも強められるように、 聖霊に願いましょう。Semper in laetítia! いつでも喜んでいますよう に。6月14日には、私が主に、私の 娘たちや息子たち、そして他の多く の人たちの祈りを御身にお捧げいた します、と申し上げることができる よう、助けてください。

6月26日のことに戻ります。創立者が絶えず「互いに愛し合いなさい、本当に心から愛し合いなさい」と言っておられたことを強調するため

です。創立者は、イエス・キリストが 弟子たち、そして私たち皆に熱心に 伝えられたmandátum novum11新し い掟を思い起こさせることしかなさ らなかったのです。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2012年6月1日

[i] 使徒言行録1,14参照。

[ii] 聖ホセマリア、『神の朋友』306番。

[iii] 同上307番。

[iv] 聖ホセマリア、『道』521番。

<u>[v]</u> 聖ホセマリア、『会見記』115番。

[vi] ローマ典文、聖体の大祝日続 誦、Lauda,

Sion(シオンよ、称えよ)。

<u>[vii]</u> 聖ホセマリア、『知識の香』 153番。

<u>[viii]</u> 聖ホセマリア、1972年1月8 日、説教のメモ

[ix] 聖ホセマリア、1974年1月1日、 新年の言葉

[x] ベネディクト十六世、2012年4月 16日、85歳の誕生日ミサでの説教。

11 ヨハネ13、34参照。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2012nian-6yue/ (2025/12/16)